通信 ともに
第65号
2018年10月11日発行
認定NPO法人ともに
住所　〒044-0053
北海道虻田郡倶知安町北３条西２丁目１－１
でんわ　（0136）55−5828
ＦＡＸ　（0136）55−5829
Ｅメール　info@npo-tomoni.com
ホームページ　http://www.npo-tomoni.com　　ブログ　http://blog.canpan.info/npotomoni/

※今号のはみ出しまめ知識はお休みいたします。

今月の一枚

ニセコ駅　ハロウィンを前に
ワークショップようてい利用者Ｕさん撮影
9月22日撮影

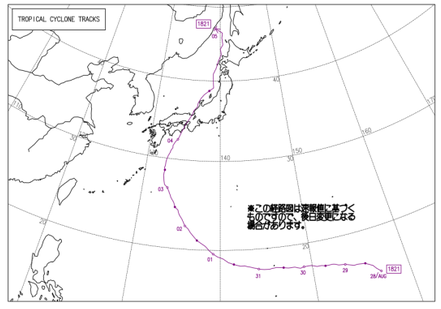
緊急報告　相次ぐ災害に直面した北海道

９月５日未明、台風２１号は北海道の日本海側に強い勢力で接近し、倶知安町は観測史上２番目となる最大瞬間風速42.4m/秒という暴風が吹き荒れました。町内の木々がなぎ倒され、電柱や倉庫が倒壊する被害があったとニュースで報道されました。

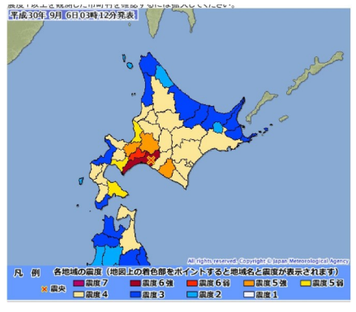
台風の爪あと間もない翌６日午前３時８分、今度は胆振地方東部を震源とするマグニチュード6.7の地震が発生。倶知安町でも震度４の揺れがありました。町内の揺れによる直接被害はほとんどなかったものの、地震直後に北海道一帯が停電し、翌日７日未明に町内すべてで回復するまで電化製品が使えませんでした。道路の信号機は点灯せず、ＪＲやバスは数日運休するなど至る所で大混乱でした。

未曽有の被害に遭った北海道。当法人は大きな被害はありませんでしたが、災害対応について多くの課題を突き付けられました。これから検証を重ね、さらに減災できるよう改善していきたいと考えています。各事業所の詳しい状況については３ページの各事業所欄に掲載します。

（右の画像および記事の数値は気象庁発表データを引用）



台風21号の進路図。主に近畿地方で猛威を振るい、和歌山市で最大瞬間風速57.4m/sを記録した。



６日の北海道胆振東部地震の震度一覧。厚真町で北海道で初めてとなる震度7を観測した。

相談支援担当者会議～災害を考える

羊蹄山ろく地域自立支援協議会の相談支援事業担当者会議は、通常地域課題等を検討する場ですが、地震の1週間後の9月14日の会議は予定を変更して、各事業所の災害報告とその対応について取り上げました。

各グループで共通した話題として、各利用者へ安否確認をしたいが連絡がとりにくいこと、停電で冷蔵庫が使えないことによる食料の確保、どのように正確な情報を把握するか、などがありました。また障がいを持っている方（特に子ども）がこのような非常事態で動揺していて、どう支援するかという話題も出ていました。

土田正一郎Dr.は総評で「災害が起こったとき私たちはスイッチを切り替えられるが、それができない人がいることを知っておかなければならない。ケアする側も自分自身を維持しなければケアはできないと思う」と話していました。

障がい者就労支援事業所 ワークショップようてい　じゃがいも　今年は数量限定です

今年もワークショップようてい農業部が育てたじゃがいもを販売する時期がきました。昨年まで「きたかむい」をつくっていましたが、今年から「さやあかね」のみです。今年は長雨などの悪天候で例年の半分以下の収穫量となってしまいました。在庫が限られていますのでお早めのご注文をお願いします。受け付け順となりますのでご了承ください。

ご注文は注文書をお使いください。Ｅメールの場合は同じ内容をお書き添えの上、表紙のアドレスまでお送りください。（ひがしはら）

精神科医　土田正一郎の

その54　到達点

私たちの人生には、生きている以上、その到達点があるのだろうと思う。私の到達点はどこ？

職務上、誰かの到達点に関わることが多いような気がしている。その到達点は誰の到達点なのか？　今なのか？　もうピークを越えたのか？　この先に待っているものなのか？　私に尋ねないでほしい、私は君のそばにいるだけなのだから。

ともに顧問（自称）

各事業報告～９月末現在

障がい者就労支援事業所 ワークショップようてい
契約／移行２人、Ｂ型20人
見学／6人、体験／０人

グループホーム よろこび
利用者　21人（定員22人）
見学／０人、体験／０人

◆法人会員　正会員20人、賛助会員　団体4　個人90人
◆30年度寄付金　のべ14人　128,075円
◆寄付物品　飲料、お米、牛乳パック

編集後記

今号は9月に起きた災害関連を中心に記事を変更しました。さて先日ＮＨＫ「はじっこ革命」を観ました。楽しい寄付という内容で、寄付にマーケティングという考えは参考になりました。抵抗感なく楽しくなる社会貢献の方法を考えたいです。（かわさき）

K.S.C. Juntos　第３回ともにカップ　ユナイテッド破竹の３連覇

９月６日の地震と停電による影響で開催が心配された今大会でしたが、表明していた全チーム予定通り出場することができ、無事開催できました。

今回は初出場の名寄市「United Hearts」を含む計６チームが参加。決勝トーナメントはせず総当たりで順位を決めました。過去２回優勝している倶知安町のサポートスタッフチーム「K.S.C. Juntos United」の壁は厚く、他のチームは奮闘したものの全勝で３連覇を達成しました。当事者チーム「K.S.C. Juntos」は１勝１分３敗で勝ち点では難勝ＦＣと並びましたが、得失点差（＝総得点ー総失点）で及ばず４位でした。

大会の前に札幌サポーターズクラブの監督である北川修さんの発案で北海道選抜チーム「リベルダージ北海道」の練習体験会をおこないました。全国大会でも好成績を残しているチームの練習が体験できるとあって、各チームは真剣なまなざしで練習しました。

なお、開催にあたり右のスポンサーさまから協賛をいただきました。ありがとうございました。

大会協賛（順不同・敬称略）

- GAVIC
- サッカー＆フットサルショップ　FREE STYLE
- 株式会社川端文化堂
- 創作和食リストランテさかもと
- エクシード

	結果	Juntos United	札幌ＳＣ	ふぉれすと	難勝ＦＣ	Juntos	United Hearts	勝点	得失差	総得点
1	K.S.C. Juntos United（倶知安町Ⅰ		○ 4-2	○ 3-0	○ 6-0	○ 5-0	○ 8-0	15	+24	26
2	札幌サポーターズクラブ（札幌市）	× 2-4		○ 6-1	○ 3-1	○ 5-0	○ 3-0	12	+13	19
3	ふぉれすと（小樽市）	× 0-3	× 1-6		○ 4-2	○ 3-1	○ 4-0	9	0	12
4	難勝ＦＣ（倶知安町）	× 0-6	× 1-3	× 2-4		△ 0-0	○ 2-0	4	-7	5
5	K.S.C. Juntos（倶知安町）	× 0-5	× 0-5	× 1-3	△ 0-0		○ 1-0	4	-11	2
6	United Hearts（名寄市）	× 0-8	× 0-3	× 0-4	× 0-2	× 0-1		0	-18	0

こころのルネッサンス

９月29日から30日にかけて、ＮＰＯ法人MiMaTa主催、当法人が後援する「こころのルネッサンス」が倶知安厚生病院生活療法センターで開かれました。

第1日は当事者研究をたっぷり学び、第2日は５組がそれぞれの研究実践発表をおこないました。当法人からはかみよ職員が発表しています。今年もワークショップようてい製造部の手工芸品、調理部のクッキーを販売し、好評をいただきました。ありがとうございます。

障がい者就労支援事業所 ワークショップようてい　ワークショップは災害にどう直面したか

9月に北海道を襲った２つの災害は、ワークショップようていでも影響がありました。

台風21号の暴風では、わっくわく横に設置したビニールハウスの骨組みが変形して倒壊し、ビニールも写真のように再生不能なほど破損しました。幸い周囲の建物には当たらず、骨組みも修復可能だったため、その日のうちに復旧できました。警報が当日のうちに解除されたため午後から開所することができ、混乱はほとんどありませんでした。

しかし6日の地震による停電では大混乱になりました。閉所に決めたことを利用者に伝えるにも電話がつながりにくく、連絡は困難でした。幸い利用者全員無事を確認。翌7日に電力は復旧し開所したものの、バスやＪＲが運休したため利用できない方もいました。

後日職員会議でこのことを話し合いました。会議で出た課題は、①電話がつながらない場合の連絡手段をどうすれば良いか、②非常時の職員出勤体制の再考、③防災計画の見直し、④防災物資の把握と活用、でした。今後検討を重ね、スムーズな対処ができるようにしていきます。

ワークショップようていの動き

9月5日
- 6:00　暴風と洪水警報発令中の閉所を決定
- 7:00　利用者に電話で連絡
- 8:30　一部職員出勤　ビニールハウス倒壊を確認
- 10:15　各警報解除により午後からの開所を決定
- 12:30　利用者受け入れ

9月6日
- 6:00　停電による閉所を決定するも、早期で解消すると予測し午前中のみの閉所とする
- 8:30　出勤できる職員が到着し、自家用発電でテレビとインターネットを起動させ情報収集
- 10:00　停電の長期化がわかり解消するまで閉所を決定。連絡がつかない利用者へは訪問で知らせる

9月7日　未明に通電したため開所決定、通常通り開所

グループホーム よろこび　グループホームは災害にどう対応したか

地震の影響は、グループホームでも大きな課題となりました。6日の早朝入居者へ連絡と直接訪問し、全入居者の無事を確認しましたが、グループホームでも連絡方法に課題が残りました。

７月の落雷による停電で自家用発電機の活用を痛感した私たちは使い方を共有していたものの、本格的な使用は初めてだったので試行錯誤しました。またガソリンを買い足そうにもガソリンスタンドで給油を断られた時がありました（午後に購入できた）。幸いガスと水道は使えたため、職員による昼食炊き出しを実施。おにぎりを各住居に配布しました。自家発電機で冷蔵庫の電源を確保し、在庫が無事だったため夕食は通常メニューを提供。電力が復旧した翌日以降はいつも通りの生活が戻りました。

後日の職員会議で①各住居が離れているため避難場所が異なり、安否確認をどうすればよいか、②車いすを使用している方などの避難誘導の方法、③非常食のストックを充実させる、などの話が出ました。入居者の安全をまもるためにも今回の教訓をもとに見直していきます。

当法人が所有する自家発電機。停電時に威力を発揮した

グループホームの動き

9月6日
- 6:00　管理者が各住居を回り入居者の全員無事を確認
- 8:30　出勤できる職員が到着し、自家発電を稼働。職員が手分けして再度住居訪問
- 10:00　自家発電の電気と止まっていなかったガス、水道を活用し、入居者昼食の炊き出し作業。ガソリン購入でガソリンスタンドに向かうも給油できず（停電でスタンドのオイルをくみ上げるポンプが使えないため）
- 12:00　炊き出しを各住居に配付
- 13:00　ガソリンを購入できるようになり、追加購入
- 14:30　夕食の調理（通常通りのメニュー）
- 16:00　夕食を各住居に配付